

I 大学等における保育の仕組みづくりのモデル
構築に係る実証的検証

1. 地域の男女共同参画社会実現を先導する学内保育所設置モデルの実証的検証

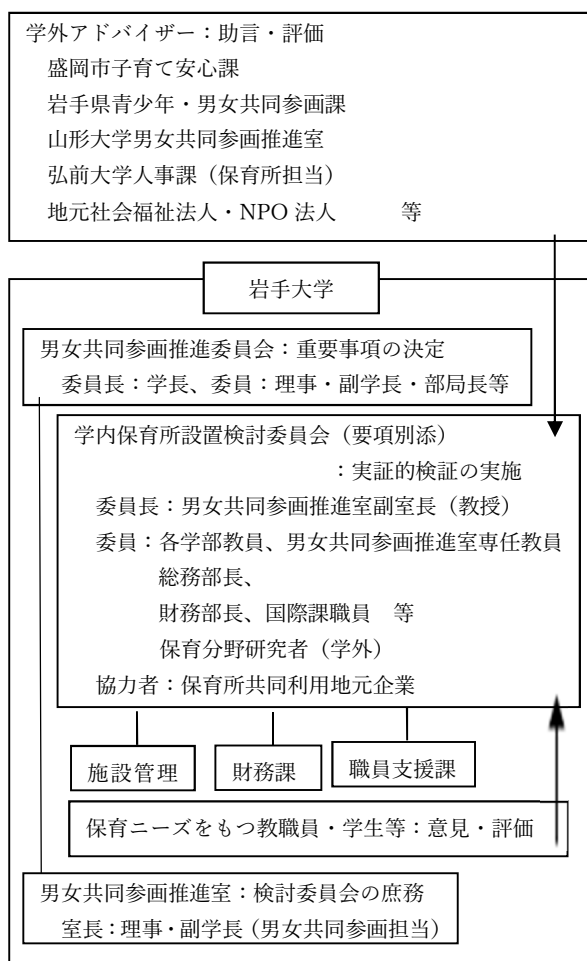
国立大学法人岩手大学（岩手県）

1. 検証概要

これまでに実施してきた、教職員・学生等の研究や学業と子育てとの両立支援施策や保育環境整備の実績について効果を検証するとともに、教職員・学生等及び地域の子育て世代の保育ニーズを把握することで、地域の拠点大学として期待される保育環境の形態や機能について検討する。

これを踏まえ、地元企業との連携による企業主導型保育事業を利用した保育所の開設を目指す。

2. 実施体制



3. ヒアリング概要

(1) 事業実施において効果的であった点

本事業は「モデル構築」であるため、岩手大学での取組が全国のモデルとなるという学内のモチベーションを高めること、学内保育所の設置に向けた取り組みの推進力になった。

また、これまで実施してきた男女共同参画推進室の事業（「岩手大学次世代育成サポーター」、学内保育スペース「ぱるんひろば」等）について効果等を振り返り、検証するうえでも非常に有効であった。

(2) 委託事業実施において困難であった点

「岩大モデル」の構築ということで学内の合意は得られたため、合意形成の部分では特に難しさを感じることはなかった。

しかし、公募開始から締め切りまでの期間が短く、十分に準備ができなかったため、学内の追認という形で進めざるを得なかったことは難点であった。

また、委託費が使いにくいことも難点である。人件費には使えず、費目間の流用についても、もとの各費目の金額自体が少額なため、軽微な事業計画の変更でさえ、すぐに流用制限に引っかかる。もう少し柔軟に執行できるようになると良い。

(3) 地域の保育環境の整備及び地域との連携状況

地域との連携においては、役員間、教職員間、現場間とそれぞれの段階で進めている。例えば、上田地区の学童保育は

次世代育成サポーターの実習場所となっている。

地域の大学として、日頃から地域の企業や自治体との連携を醸成してきたからこそ、今回の岩手銀行との保育所設置における連携協定もスムーズに進めることができた。

一方、岩手大学と岩手銀行は地域において大手でもあるため、「大手だからできたのでは」という声も聞かれたが、地域の方々に、企業主導型保育など国の制度等活用しながら企業が連携すればこういことができるということを示したいという狙いもあった。

(4) 翌年度以降の保育環境整備に向けた展望

岩手銀行との連携で企業主導型保育所設置を目指す。できるだけ2017年中に開園したいと考えている。

働くこととの両立という観点で保育の取組は広がってきているが、「学び」との両立という観点での保育の取組はまだまだ広がっていないと考えている。教職員や研究者が働きやすくということはもちろん、学生が学びやすくなるような保育環境を整えていきたい。

また、設置する保育所が岩手大学、岩手銀行の人だけのものと見られないようにする必要がある。女性の学び直しや働いている人、育休中の人など、「大学の中の保育所で子供を預かってもらいながらステップアップができる」というように自分が使えるものとして見てもらえるよう取り組んでいく必要がある。

一方、学生や留学生の子供を対象とする場合、地域枠や定員の配分について検討の必要がある。費用の拠出に大きくか

かわる部分でもあるので、連携企業とともに協力の在り方を含めて柔軟に考えていきたい。

「第2回 子育て支援フォーラム～仕事と育児の両立を可能とする働き方とは～」

(平成29年1月31日(火)実施。)

本フォーラムでは、岩手大学学内保育所検討委員会から学内保育所設置に向けたこれまでの活動の報告や、岩手県、盛岡市による施策説明に加え、企業による働き方の改善の取組事例として、株式会社岩手銀行及びホシザキ東北株式会社からの事例紹介が行われた。

○フォーラムの様子



文部科学省委託事業「大学等における保育の仕組みづくりのモデル構築に係る実証的研究」

第2回 子育て支援フォーラム

仕事と育児の両立を 可能とする働き方とは

参加無料
無料託児あり※要申込

日時
2017年
1月31日(火)
13時00分～

場所
岩手大学図書館2階
生涯学習・多目的学習室

対象
岩手大学教職員 地域の方々

※無料託児はどなたでもご利用頂けます。
定員等の都合がございますので、
1月24日(火)までにお申込みください。
(岩手大学はくまん認定されています)

- 開催にあたって ■ 13:00～
岩手大学理事・副学長、男女共同参画推進室長
菅原 悦子
- 学内保育所検討委員会報告 ■ 13:10～
岩手大学学内保育所設置検討委員会 委員長
宮本 ともみ
- 政策説明 ■ 13:25～
岩手県環境生活部
若狭女性協働推進室 若狭 中里 裕美氏
盛岡市保健福祉部 参事兼子育てあんしん課長
石橋 浩幸氏
- 事例紹介 ■ 13:55～
株式会社岩手銀行 人事総務部主任調査役
漆沢 隆文氏
ホシザキ東北株式会社 管理総務課課長
高橋 真弓氏
- 意見交換 ■ 14:35～

■お申込み・お問合せ■ 岩手大学男女共同参画推進室 〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18-8
E-mail: equality@iwate-u.ac.jp Tel: 019-621-6998 Fax: 019-621-6999

第2回 子育て支援フォーラム

仕事と育児の両立を可能とする働き方とは

趣 旨

岩手大学では、「教職員が仕事と生活を両立できる環境を整備し、職場における男女共同参画を推進する」ために、2010年から学内に保育スペースを整備し、勤務制度や休暇取得に関する情報提供を積極的に行うとともに、ワーク・ライフ・バランスについての意識を高めるための取り組みを行ってきました。

一方、2015年に実施した「ワーク・ライフ・バランスとキャリア形成のためのニーズに係るアンケート」では、仕事と子育ての両立のために必要な支援策として「職場の雰囲気」「子育て期間中の休暇や休業制度」「弾力的な働き方を選択できる制度」といった回答が多く、多様な教職員一人ひとりが能力を十分発揮できるよう配慮された、働きやすい職場環境づくりが期待されています。

今回のフォーラムでは、行政施策や女性活躍促進に関する取り組みが優良な企業の事例を通じ、仕事と育児の両立を可能とする働き方について、学内外の意識形成を図ることを目的としています。

参加申込書

No.	名前	所属	連絡先	託児	備考
1	ふりがな			要 ・ 不要	
2	ふりがな			要 ・ 不要	
3	ふりがな			要 ・ 不要	

お申込み方法

- ◆参加申込書にご記入の上、1月24日(火)までに、岩手大学男女共同参画推進室へFAXまたはメールでお申込みください。当日参加も歓迎いたしますが、準備の都合上、できるだけ事前にお申し込みください。
- ◆託児（無料）をご希望の方は、1月24日(火)までにお申込みください。

※ご記入いただいた個人情報は、この事業以外には使用いたしません。


アクセス

- ◆JR盛岡駅からバス約15分（バスターミナル11番のりば）
＜岩手県交通バス＞
駅上山線「松園ターミナル」行き、「岩手大学前」下車
駅桜台団地線「桜台団地」行き、「岩手大学前」下車
※お帰りの際のバス停は岩手大学正門から徒歩約3分の「上田二丁目」となりますのでお気をつけください。
- ◆JR盛岡駅から約2km
＜タクシー＞約10分　＜徒歩＞約25分

お申込み先

岩手大学男女共同参画推進室 〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18-8 TEL:019-621-6998

019-621-6999
 equality@iwate-u.ac.jp
(件名に「第2回子育て支援フォーラム」と記載ください)



2. 女性が子育てと学業・研究を安心して行える保育環境整備に関する研究

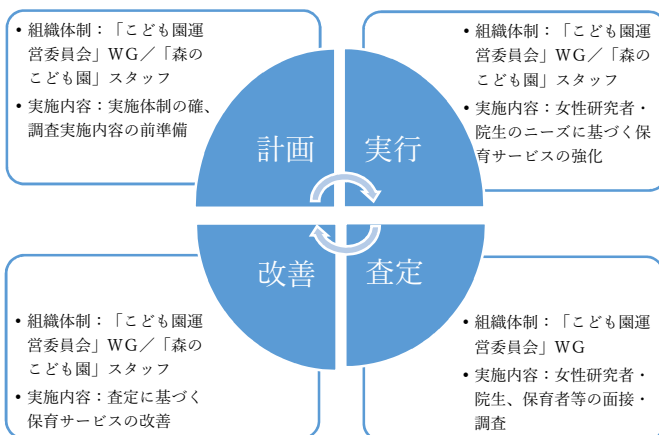
宮城学院女子大学（宮城県）

1. 検証概要

女子大学であることを生かし、在籍する女性研究者・院生が、子供を預けながら研究活動を行う場合、研究と家事・育児の両立等について具体的にどのような課題が生ずるかについて事例研究法を通して実践的に検証を行う。

その知見を活かし、キャンパスに設置されている附属こども園等の保育環境を活用した一時保育等のサポートティブな保育サービスのモデル構築を目指す。

2. 実施体制



メンバー構成

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| (1)「こども園運営委員会」ワーキンググループ | (2)「森のこども園」スタッフ |
| ①副学長 | ①園長 |
| ②園長補佐 | ②教頭 |
| ③幼児教育専攻選出委員 | ③クラス担任教諭(6名) |
| ④児童教育先行選出委員 | ④子育て支援担当教諭(1名) |
| ⑤食品栄養学科選出委員 | |
| ⑥女性研究者(保育所利用経験者) | |

3. ヒアリング概要

(1) 事業実施において効果的であった点

女性教員が子供を学内の附属森のこども園(以下、附属園)に預けながら仕事をするにおける効果や課題について検証ができています。

具体的には、学外の他園を利用することに比較すると通勤時間の短縮につながる点や、近くに子供を預けることによる安心感にもつながっていることなどがある。仕事の合間に附属園の行事に参加することができる。

附属園側としても、教授会など大学の予定等を把握できていることから、園を利用している教員の迎えが遅くなることなどを予想し、子供に丁寧な対応ができるなどサービスの向上にもつながっている。

また、学内のこども園で託児ができることは、優秀な教職員を確保することにつながっている。例えば、学生相談室で週3日勤務のカウンセラーを募集したところ、附属園の一時保育を利用できることを条件に応募があった。さらに、非常勤講師も一時保育が利用可能であることを条件に講義を担当いただいている。これらは、勤務が不規則であることにより他園では預かってもらえなかったり、講義以外の授業の準備時間等が勤務時間とみなされず子供を預かってもらえないといったケースに対応できていることが大きい。

(2) 委託事業実施において困難であった点

検証においては本学教職員を対象として実施したいところだが、3歳未満児(2号

認定、3号認定)の附属こども園への入園は仙台市の措置となるため、基本的に本学の教員という理由で優先して入園を許可することができない。

また、年度途中(11月)からのこども園への移行であったため、附属園の職員が足りなかったことから、一時保育の開始が1月中旬となり、年度途中まで非常勤講師、大学院生などのニーズに応えることができなかった。

保育士の確保は非常に苦勞した点であり、特に年度途中での開園となると大変少ない。後援会にも協力を呼びかけるなどして、以前付属幼稚園等に子供を預けていた保護者のうち、保育士の資格を持っていた方を10人ほど集めることができた。

人数は集めることができたものの、フルタイムで勤務できる方は少なく、週20時間など、パート的な勤務の方が多いのが現状である。

(3) 地域の保育環境の整備及び地域との連携状況

仙台市では待機児童が多く、0歳児の保育のニーズも高い。

近隣の仙台市立長命ヶ丘保育所には子育て支援センターが併設されており、困難な育児支援事例については、本学附属園がアドバイス等を行っている。

(4) 翌年度以降の貴大学での保育環境整備に向けた展望

来年度、一時保育の保育士が増員されることから、教職員や大学院生の一時保育利用をさらに柔軟に実施していく予定である。

一方、附属園は自前の施設であるにも関わらず、教職員のお子さんを優先的に入園

させることができない。これは2号認定、3号認定の子供については、仙台市において措置されるものであるためである。

(5) その他

大学院生に限らず、学生の段階でも保育のニーズはある。子供の出産を理由に退学するケースも存在しており、学びを断念する一因となっている。また、学びを理由とした場合、保育所に子供を預けることが難しい状況がある。(就職の場合と比べて加算される点数が大学院の場合低い。)

また、学会が土日開催されることが多いが、保育所に預けることができないことが多いため親族に来て見してもらう、ベビーシッターを利用するなど経済的な負担が大きい。保育に係る費用について、研究を継続するための必要経費として、研究経費の中で支出できるようになれば経済的な負担も軽減されるのではないかという意見も研究者からは聞かれる。



屋外でのランチの様子



冬の園庭の様子

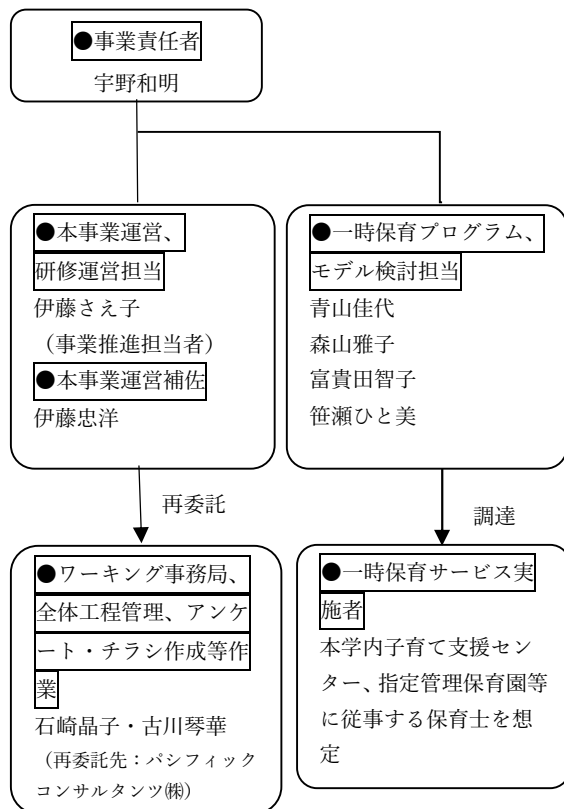
3. 子育て女性の学び直し支援のための保育サービスあり方検証を踏まえた地域企業との連携モデル構築

愛知江南短期大学（愛知県）

1. 検証概要

社会人学生や受講生を対象とした、質の高い一時保育プログラムを本学で検討し、保育環境を整える。そのプログラムを、本学研修事業の中で実証的検証を行う。さらに、これらの一時保育プログラムが、現在本学にて検討中である企業主導型保育所に融合できるかどうか、人的配置・事業性の面から検討を行い、モデルを構築する。

2. 実施体制



3. ヒアリング概要

(1) 事業実施において効果的であった点

今回の保育の仕組みを作り上げるまで（講座の中身を含めて）、ワーキングを4回実施した。今後は企業主導型保育事業に申請予定の保育所において実施する一時保育のプログラムとして活用予定である。

単に子供を預かるだけ、ということではなく、保育専攻課程がある大学だからこそできる質の高い保育を実施することができたと考えている。

(2) 委託事業実施において困難であった点

委託費が使いにくい。この実証的検証は、環境整備が重要であり、また、子供を預かるという視点からも、検証といえども、安全性の確保と備品の整備が必要である。受託者が実施したいと思う検証を着実に実施できないということにもなる。

(3) 地域の保育環境の整備状況

江南市内には、公立幼稚園は18園ある。うち指定管理者制度の保育園2園（本大学指定管理古知野西保育園含む）、幼稚園は私立が5園。指定管理の2園については午後8時まで開園（それ以外は午後7時まで）。

江南市では病児保育は実施されていない。また、待機児童はいないが、0歳児については年度途中からの入園は

難しく、希望する園に入れにくいこともあるとの話を聞いている。

(4) 地域との連携状況及び翌年度以降の保育環境整備に向けた展望

地元の企業との連携で企業主導型保育所設置を目指す。保育所設置のハード面（費用）については、企業が負担し、その他、安全管理や運営ノウハウ等のソフト面は大学において担うことを現在は想定している。連携企業は製造業であり、独自のカレンダーにて営業している。祝日や保育所が開園していない時間帯での保育へのニーズが多く、本保育所にて実施していく予定。

（子育て中の正社員女性は、企業独自の勤務形態に通常の保育時間が合致しないためにシフト勤務の経験値が不足するという状況を改善することができ、企業にとっても、より責任のある役職に就きたいと希望している子育て中の女性にとってもまさに win-win である。）

さらに、自治体とも連携して、ニーズの高い病児保育の実施も検討する予定。企業主導型保育事業については、他の補助金との併用ができないため、事業所内病児保育という稼働率が見込めない事業に対しての行政の追加的な助成を投じることができない。より幅広い事業を行えるよう、国においても制度の見直しをお願いしたい。

保育・子育てを楽しく学ぶ！ReLearn 講座

（平成 29 年 1 月 11 日（水）、13 日（金）実施）

保護者向けの子育て等に関する講座を実施している間、講座参加者の子供の一時保育を実施。

○講座の様子



○一時保育の様子。一時保育への保護者の不安を軽減するため、子供につく保育士を担任制とする試みを行っている。



親子同伴講座と保護者向けの講座をそれぞれ実施。 講座の内容は子育てに関するものとなっている。

大人も子どもも笑顔になれる江南短大新企画！
保育・子育てを楽しく学ぶ！
Relearn講座 申込み締切
12月14日(水)

子育て中でも、子育て中だから、保育・子育てについて学ぶ時間を持ってみませんか？
 江南短大は、子育て中のお父さんお母さんの学びを応援するため、一時保育付の講座を開催します！

第1回
 平成29年1月11日(水) 11:00~14:50
 講師：NHK名古屋放送局 野田英里アナ 他

第2回
 平成29年1月13日(金) 11:00~14:50
 講師：おもちゃインストラクター 井藤ゆか 他

お昼休みは、親子でランチ♪

場 所：愛知江南短期大学 もくれん館2階 (江南市高島町大松原172番地) ※駐車場完備
 対象者：・子育て中の方
 ・ファミリーサポート会員
 ・保育に興味関心がある方
 定 員：各回15名
 受講料：無料

1日だけの参加も大歓迎！

詳細は裏面へ

お父さんお母さんがほっと一息つける、お子さんも楽しめる、そんな一時保育を実施します！

【一時保育概要】
 第1回 12:30~15:00 子育て支援センター「こ〜たん」
 第2回 10:30~14:00 もくれん館2階
 【保育料】 無料 【対象年齢】 9ヶ月~6歳(未就学児)
 ※親子同伴講座時は、親子一緒に過ごします。

※本プログラムは、文部科学省委託事業「大学等における保育の仕組みづくりのモデル構築に係る実証的検証」の検証プログラムであり、その成果は文部科学省「女性の学びを支える保育環境の在り方検討会」へ報告いたします。

お申し込み・お問い合わせ

愛知江南短期大学 (担当：伊藤)
 【電 話】 0587-55-6165 (内線119)
 【Email】 relearn@konan.ac.jp
 【受付時間】 10:00~17:00

①講座参加者氏名/年齢
 ②電話番号/住所/メールアドレス
 ③希望参加日
 ④一時保育を利用するお子さんの名前(よみがな)・〇歳〇ヶ月

※申込数が定員に達した場合は、抽選とさせていただきます。ご理解いただけますようお願いいたします。

プログラム (50分講座)

第1回 1月11日(水)

11:00~11:50 親子同伴講座
絵本で育む～親子力・保育力～
 子どもも大人もみんな大好きな絵本！親子や保育活動の中で絵本を楽しむことは、健やかな子どもの成長に繋がります。絵本は、絵本をそのまま「読んで」いませんか？講座では、発達段階に合った絵本の選び方、促す読み聞かせ方法を学びます。子どもと楽しくやりのりを楽しみながら親子力・保育力を高めましょう！
 【講師】 NHK名古屋放送局 野田英里アナ

13:00~13:50 親子同伴講座
子どもの仕事は遊ぶこと！遊びの意味を知ろう
 大人は「遊んでばかりいると大変ですが、子どもは「遊んでばかりいること」が重要なんです！子どもにとっての遊びがなぜそこまで大切なのか？遊ばない「遊べない」子どもはどうなってしまうのか？乳幼児期の遊びが小学校でのお勉強に与えることも大事な役割について学びます。遊びが盛り上がるためのポイントアドバイスつきです！
 【講師】 愛知江南短期大学 富貴田智子

14:00~14:50 親子同伴講座
学ぼう！助けよう！子どもの救命方法
 もし、わが子が心臓停止になってしまったとき、あなたが取るべき行動は？乳幼児に對しての正しい救命措置方法を学びます。幼児用AEDの体験学習も行います。
 【講師】 江南市消防署職員

第2回 1月13日(金)

11:00~11:50 親子同伴講座
どうしたの？子どもの心を探してみよう
 子どもの行動は、大人には理解できない行動もあるかもしれませんが、子どもにとっては大事な「行動」なのです。この「行動」を読みとっていませんか？子どもを理解すると楽しい子育てになれますよ！この講座では、子どもの理解、発達過程を学びます。お子様にあった対処法もお伝えします。
 【講師】 愛知江南短期大学 笹瀬ひと美

13:00~13:50 親子同伴講座
知って得！子どもの事故予防学
 子どもは、成長するにつれて、いろいろなことに興味関心をもち、時に怪我をしてしまいます。危害の仕方は文化によって異なることあります。突然起こる子どもの怪我に對する正しい対処法を学びます。身近な家庭が手当ての道具に大変身！使用方法をご紹介します。
 【講師】 日本赤十字社愛知県支部職員

14:00~14:50 親子同伴講座
おもちゃと子どものマッチング～オンラインのおもちゃを作ろう～
 たかが「おもちゃ」？いえいえ、おもちゃは子どもの成長にかかせないものです。子どもは、遊びを通して文化を共有し、社会を学びます。そんなおもちゃを手作ししながら子どもとの接し方について、学びます。愛情たっぷりのオンライン「おもちゃ作り」で、子どもと一緒に楽しみましょう！
 【講師】 おもちゃインストラクター 井藤ゆか

一時保育

1月11日(水) 12:30~15:00 子育て支援センター「こ〜たん」 (愛知江南短期大学構内)
 1月13日(金) 10:30~14:00 もくれん館2階 (愛知江南短期大学構内)

ひろいおへやにたくさんのおもちゃがあるよ！

●昼休みは、親子でランチ♪ (食事は、各自でご準備ください)
 ・江南短大食堂の利用が可能です。
 ・江南短大付属幼稚園とおなじ給食ランチもご注文いただけます。(実費負担)
 ●子育て支援センター「こ〜たん」の保育士が中心となって保育を行います。
 ●保育は、年齢・月齢に合わせた遊びを実施！
 ●なお、本講座はイベント保険に加入しております。
持ち物：バスタオル(2枚)フェイスタオル(1枚)、着替え、紙オムツ、ゴミ袋(3枚程度)、おやつ、事前調査書
 ※全ての持ち物に各名の記載をお願いいたします。

4. 都会地域における複数大学連携による女性の学び支援を軸とした保育サービスの検証

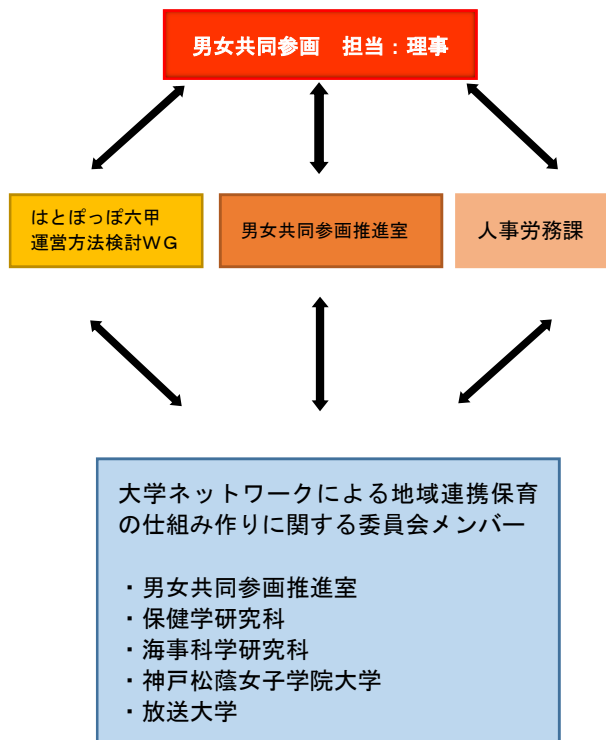
国立大学法人神戸大学（兵庫県）

1. 検証概要

近隣の大学と「大学ネットワークによる地域連携保育の仕組みづくりに関する委員会」を設置し、放送大学の学生や連携大学等の公開講座受講者を対象とした学び直しのための一時保育サービスの実施や、学生を対象とした一時保育の利用促進を目的とした広報及び潜在的なニーズの掘り起こしを実施する。

それらの取組を通じて、大学の多い都会地域における複数の大学の共同による一時保育の在り方等を検討し、「都会地域における複数大学連携による女性の学び支援を軸とした保育サービス」モデルの構築を目指す。

2. 実施体制



3. ヒアリング概要

(1) 事業実施において効果的であった点

ホームページの活用や本事業実施にあわせて作成したチラシの配布によって、一時預かり保育の取組に関する周知の範囲がこれまで以上に広がった。

また、「大学ネットワークによる地域連携保育の仕組みづくりに関する委員会」の設置や実際の取組を通じて、神戸松蔭女子学院大学や放送大学等、近隣の大学との連携をより一層進めるためのきっかけとなったほか、実際の取組の中で3校間の共同保育事業実施のシステム(手続きフロー)を確立することができた。

さらに、六甲台地区では、すでに「はとぼっぼ六甲」を設置しており、一時保育等実施してきたが、その他の地域(名谷キャンパス、深江キャンパス地域)における保育事業は実施できていなかった。今回の実証的検証を通じて、それら六甲台地区以外の場所での保育事業を実施するためのシステムを確立することもできた。

加えて、当初想定していなかった需要の掘り起こしができたことも効果的であった。具体的には、神戸大学以外の他大学の社会人学生と、外国人研究員である。また留学生については、日本語教育を受けに来ている間の一時保育需要があることが分かった。

(2) 委託事業実施において困難であった点

検証において、実施の一時保育は民間事業者へ依頼したところだが、その際、本人の事由ではない直前キャンセルの取り扱い扱

いについて検討が必要となった。今回の検証では利用者負担のない(無料)形で実施していたものの、直前にキャンセルすると、キャンセル料がかなり高額になるケースが発生することが分かった。このことから、費用負担について検討が必要であった。

また、今回の検証の中で、「はとぼっぼ六甲」で各キャンパスの子供を預かるよう、バスにて各キャンパスを回り、利用者を送迎する取組についても検討していたが、送迎時の安全性等について十分に確保できるのかを検討した結果、今回は実施することができなかった。

(3) 地域の保育環境の整備及び地域との連携状況

今回のモデル構築の検討にあたっては、地域の大学等との連携を想定していたため、自治体や企業との連携は想定していなかった。

近隣大学との連携については本事業の実施によって広げることができ、神戸松蔭女子学院大学、放送大学、兵庫県立大学等と連携することができた。一方、放送大学、兵庫県立大学とは連携はできたものの、実際の一時保育利用者はいなかったため、今後の取組を通じて、対象者がいれば利用していただけるようにしたい。

(4) 翌年度以降の貴大学での保育環境整備に向けた展望

「大学ネットワークによる地域連携保育の仕組みづくりに関する委員会」のメンバーである神戸松蔭女子学院大学及び放送大学との連携の在り方は、3月に実施する本委員会で検討する。

一時保育の実施においては、小学生を対象として、サマースクール等を実施し、そ

こでベビーシッターの利用等もあわせて実施することを検討しているところである。

シンポジウム 「保育の仕組みづくり

—これからの大学の役割を問う—

(平成 29 年 3 月 11 日(日)実施)

本事業の一環として、地域の保育関係者や行政とともに、地域の保育の仕組みづくりに神戸大学がいかにかに寄与できるかについて検討。

○チラシ

主催：神戸大学男女共同参画推進室
文部科学省 大学等における保育の仕組みづくりのモデル構築に係わる実証的検証実施委託事業

保育の仕組みづくり

—これからの大学の役割を問う—

2017年3月11日(土) 10~12時

会場：神戸大学先端融合研究環状研究拠点コンベンションホール
神戸市中央区港島南町7丁目1-48
ポータルライナー「京コンピュータ前」駅より徒歩1分

神戸大学では、一時保育施設「はとぼっぼ六甲」や、事業所内保育所「はとぼっぼ保育園」、子育て支援施設「あーち」、子育て学生支援室(発達科学部内)、附属明石幼稚園等を有し、大学の学生、教員の保育支援をおこなっています。平成28年度には文部科学省の「大学等における保育の仕組みづくりのモデル構築に係わる実証的検証実施委託事業」として、保育の仕組みづくりにどのように人が役割を果たすことができるのか、について検討を進めています。

このたび、本委託事業の一貫として、下記のとおりシンポジウム「保育の仕組みづくり—これからの大学の役割を問う—」を企画しました。先駆的事例に学び、地域の期待への知見を深め、これからの日本の保育の仕組みの在り方への展望を得たいと考えています。

平成29年4月より神戸大学国際人間科学部子ども教育学科に乳幼児教育学コースを創設することとなりました。地元神戸の保育の仕組みづくりに、本学がこれらいかに寄与することが可能か、地域の保育現場の先生方や行政当局の方と共に考える機会を得たいと願っています。

主な内容	シンポジウム シンポジスト：宮里暁美 園長(文京区立お茶の水女子大学こども園) 北野富美子 先生(神戸市こども家庭局子育て支援部) 坂本千代 室長(神戸大学男女共同参画推進室) 指定討論者：無藤隆 先生(白梅学園大学) コーディネーター：北野幸子(神戸大学)
応募方法	① 午前午後両方参加、② 午前のみ参加、③ 午後のみ参加、 ④ 懇親会参加(同一会場で17時半~19時半を予定、会費3000円程度)の 有無を記入のうえ、メールにてお申し込み下さい。 ご連絡いただいた個人情報は、本企画の運営の目的のみ利用させていただきます。
申込締切	2017年3月5日(日)

お問い合わせ・申込先 神戸大学大学院人間発達環境学研究科北野研究室 メールアドレス hoyousyo@h.kobe-u.ac.jp

○シンポジウムの様子



5. 一時保育環境を整備するためのモデル構築の検証事業

国立大学法人山口大学（山口県）

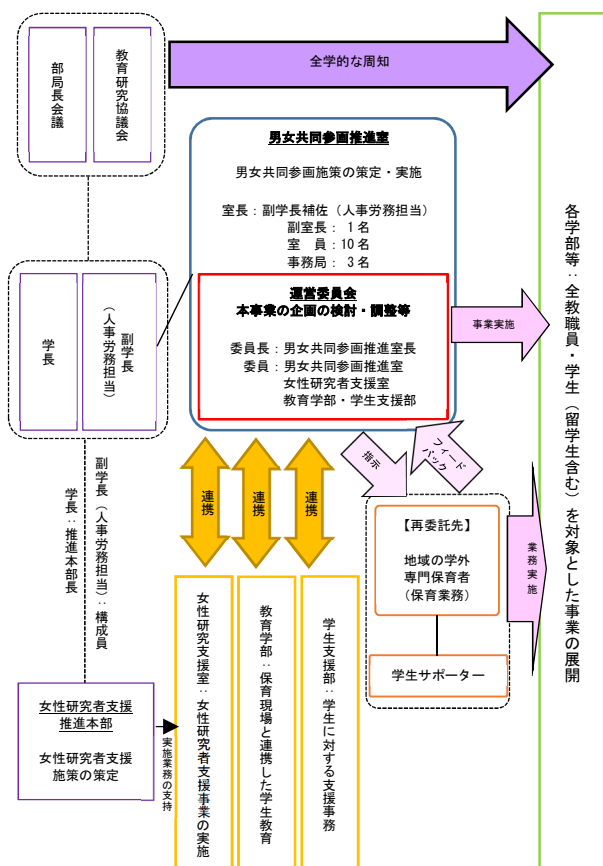
1. 検証概要

一時保育に対するニーズが高いことから、これまでに学内保育スペースの整備等を進めてきたところであったが、利用実績が低かった。

このことから、利用者側のニーズと現行の一時保育のあり方や方法論に何らかのミスマッチがあると推測し、問題点を把握しその改善を図ることで、特に女性が育児と学業・研究等を安心して行うことができる環境を整備することを目的とする。

その方法として、男女共同参画推進室において保育スペースの申込受付から保育者の手配までを行うモデルを構築するとともに、学生が専門保育者と保育業務の補助を行う学生サポーター制度の検討を行う。

2. 実施体制



3. ヒアリング概要

(1) 事業実施において効果的であった点

平成 27 年度より保育スペースのみを提供する形で一時保育を開始していたが、利用実績は 1 年 4 カ月の間に 4 件に留まっていた。本事業では男女共同参画推進室において保育スペースの申込受付から委託業者の手配まで行うモデルを作り、利用者の手間を省いたことにより、利用実績は 3 カ月で延べ 100 件であった。

また、休日に子供の学校行事等があった際、平日の振替休日時の需要があることなどもわかり、年間を通じてニーズが高いことがうかがえた。

自家用車通勤の教職員が多い本学では、一時保育スペースが学内にあることで、送迎等にかかる時間が短縮できること、保育時間の都合などで短時間勤務をする必要もなくなることや、空いた時間を子供と一緒に過ごせることなどから、親にとっても子供にとっても時間的・精神的に余裕が生まれた。特に、キャンパスが分散している本学では、異動などにより長距離通勤を行っている場合も多いため、学内保育所の設置が有効であると思われる。

子供たちにとっても、親の職場(環境)を見ることができ、親の仕事に対して興味が湧いたり、親子でのコミュニケーションも増えたりするなどの好影響がみられた。また、一時保育ならではの異年齢児の関わりがあり、貴重な経験であると喜ばれた。

さらに本事業実施にあたり、専門保育者と協力して保育業務の補助を行う学生サポーターを募集した。従事した学生は教育学

部の幼児教育コースや小学校教育コースの学部生が多くおり、実体験を通じた経験を積むことができたことから学習度や満足度が高かった。

(2) 委託事業実施において困難であった点

当初予定していた一時保育場所である大学会館音楽鑑賞室が、学会等の大学会館全館利用の時や大学会館内にある放送大学の試験中などで利用できない場合もあり、その都度場所を変更するなど、場所の確保に苦労した。

また、学生は平日には授業があり、長期休暇中は帰省するなど都合が合わない場合が多く、学生サポーター養成講座の開催が難しいことも挙げられる。なお、出席できなかった学生については初回サポーター従事前の個別受講となった。

(3) 地域の保育環境の整備状況

平成 28 年 3 月時点での山口市の待機児童数は 203 人、入園希望の保育園に預けられず遠方の保育園に入園している準待機児童数は 112 人おり、一時保育についても一保育園につき 15 名程度の枠はあるが、既に埋まっており、一時的に利用したい人が利用できない状態にある。

特に、1 歳未満の乳幼児については、受け入れ施設も少ない上に満員で、今回、定期的に利用した職員の中には市外の保育施設に預けるために往復 2 時間の移動を要する者もいるなど、時間的にも体力的にも大変な状況であった。

配偶者がパート勤務や不規則な勤務の場合は、保育園入園についても優先順位が下位になるため入園できないことが多く、一時保育も満員のため利用できないことが多い。

(4) 地域との連携状況

本検証事業期間中ではないが、夏季長期休暇中の一時保育時に「やまぐちネットワークエコー」との連携により、子供の力を引き出すためのワークショップや講座を開催した。本団体は地元のシニアで構成される団体であり、シニアの経験を生かすことができ、子供にとっても普段あまり接することのない地域の大人と触れ合う機会であり、地域との連携にも資することとなった。

また、自治体との連携については以下のような実績がある。

- ・「輝く女性管理職ネットやまぐち」への参加（平成 28 年 9 月～平成 29 年 1 月）
- ・「山口働き方改革宣言」（平成 28 年 12 月）
- ・「やまぐちイクメン応援企業」として登録（平成 26 年 12 月）
- ・「山口子育て応援優良企業」として表彰（平成 25 年 10 月）
- ・「やまぐち男女共同参画推進事業者」として認証（平成 25 年 9 月）

(5) 翌年度以降の保育環境整備に向けた展望

今回の検証結果や、事業実施により明らかになった様々なニーズ等を踏まえ、大学の特性に合った学内保育環境の在り方を検討していきたい。

○一時保育実施の様子



一時保育利用登録の募集!

(文部科学省委託事業「一時保育環境を整備するためのモデル構築の検証事業」)[※]

利用には事前登録が必要です
利用する可能性がある方は登録をお願いします

利用対象者	本学教職員及び学生	保育実施場所	吉田キャンパス内
保育対象年齢	生後4か月から 小学校6年生まで <small>※病児・病後児は対象外とします</small>	実施期間	平成28年11月～平成29年2月28日
利用料金		利用時間	

0歳児 (4か月～)	1日利用	2,000円/回	イベント時	イベント開催時間により考慮	
	4時間以内	1,000円/回		通常時(平日)	8時00分～18時00分
3歳未満児	夜間利用	1,000円/時間	夜間(平日)	18時00分～20時00分	
	1日利用	1,500円/回	休日	8時00分～18時00分	
4時間以内		800円/回			
	夜間利用	800円/時間			
3歳以上児	1日利用	1,000円/回			
	4時間以内	500円/回			
夜間利用		500円/時間			
	小学生	1日利用	500円/回		
	4時間以内	300円/回			
	夜間利用	500円/時間			

・ふだん通わせている保育園や小学校がお休みになった

・学会出張や入試業務

・繁忙期で残業が避けられないとき

ご利用ください

利用登録

利用登録は、本学男女共同参画推進室ホームページへ!
http://www.yamaguchi-u.ac.jp/institute/_3694.html
(山口大学ホームページ>別冊病院・附属施設等>男女共同参画推進室)

※文科省委託事業「一時保育環境を整備するためのモデル構築の検証事業」とは、保育環境整備の仕組みづくりのモデルを構築・普及するため、保育サービスの実証的検証を行う事業です

お問い合わせ：山口大学男女共同参画推進室 E-mail: yudanryo@yamaguchi-u.ac.jp
 TEL: 083-933-5017/5028 FAX: 083-933-5024

山大保育サポーター登録募集!

(文部科学省委託事業「一時保育環境を整備するためのモデル構築の検証事業」)[※]

山大保育学生サポーターとは

学生のみなさんが保育サポーターとなって、教職員・学生の家庭と仕事・学業の両立を支援する制度で、学内行事や保育所等が利用できない場合の一時保育を行います

【利 点】

- ・子どもとの関わり方を学ぶことができます
- ・保育体験をすることで、将来自分の子育てに役立ちます
- ・研究者・教職員をモデルとし、将来、仕事と育児の両立をする時のイメージをすることができます
- ・利用者や保育士と関わり、人間関係を構築することができます

【活動内容】

【実施期間】 平成28年11月～平成29年2月28日

【時 間】 通常時(平日): 8時00分～18時00分
 夜間(平日): 18時00分～20時00分
 休日: 8時00分～18時00分
 イベント時: イベント開催時間により考慮する

【場 所】 山口大学吉田キャンパス内
※詳細については安全管理の面からサポーター登録後お知らせします

【内 容】 お子様(幼児～小学生)をお預かり中の保育をし、安全に見守ります

【時 給】 原則として、本学の謝金単価の規定に則ります
 (学部生: 800円/時間、大学院生: 1,000円/時間)

【養成講座】 事前に養成講座を受講していただきます

【対象者】

- ・子どもが好きな方
- ・学校教員を目指す方で、子どもと接する経験を積みたい方(学部生、大学院生を問いません)

【登録方法】

登録方法については裏面をご覧ください

お問い合わせ：山口大学男女共同参画推進室 E-mail: yudanryo@yamaguchi-u.ac.jp
 TEL: 083-933-5017/5028 FAX: 083-933-5024

実証的検証実施大学等へのヒアリングを通じて

岩手大学

三角幸三（NPO法人チェンジライフ熊本 理事）

まずは、学外のアドバイザーの方々など、たくさんの方々の声を聴きながら、学長を中心として全学的に保育環境の構築にむけて努力されていることに感謝したい。組織は、決定機関とキーパーソンを中心にしたワーキングチームの二部構成で有機的に機能しやすいシステムになっている。また、子育てフォーラムや研修会等の実施、ニュースレターの発行等の啓発や共通理解を図る取組を続けられており、このような地道な啓発活動が企業との連携による保育環境の整備に繋がっていると思われる。

これから、保育所の開設に向けて多くの業務があるが、先駆的モデルの好事例を作り上げていただきたい。学内には職員だけでなく、社会人学生、留学生、聴講生など多様な勤務形態、学習形態の方々がいらっしゃることから、多様な保育環境を整備する必要がある。

若い女性研究者や社会人学生、留学生から、研究環境や学習環境も重要であるが、それと同じくらいに学内の保育環境が重要だという声をたくさん耳にする。もう 20 年ほど前になるが、イギリスの大学とアメリカの高校を視察訪問したことがある。イギリスでは、当時から社会人大学生の割合が高かったので保育環境が充実していた。アメリカの高校も、出産育児のためにドロップアウトする女子学生を防ぎ、学びを保障し自立を支援するために保育園が整備されていた。

日本も、これからますます若手の女性研究者、社会人学生や留学生など多様な勤務や学び方が増えてくる。優秀な指導者や学生を確保し育成するためにも大学内の保育環境の整備は重要であると考えます。

愛知江南短期大学

山岸達生（静岡県 暮らし・環境部 県民生活局 男女共同参画課 専門監）

愛知江南短期大学は、保育士・幼稚園教諭を養成する大学として、付属保育園を備え、指定管理者保育園（市）を運営し、市の子育て支援センター運營業務を受託している。

当大学は、企業との連携で企業主導型保育所の設置を目指しており、連携先は近隣の会社（製造業）を想定している。工場ではシフト制での勤務となることから、国民のカレンダーと異なり、保育が必要な日は土日も含まれるとのことである。

今回の受託事業における経費について、国からの委託料では備品購入は認められていないが、一時保育に必要な物品など真に必要なものは認めてほしいとの要望があった。対象経費として認める「備品」について検討する必要があると感じた。

愛知江南短期大学が目指す「質の高い保育」とは、国家資格を持つ保育士が、目的を持って取り組む、情報を開示する（預ける前、預けた後の見える化：預かる子どもについて、事前に情報把握、保育中の行動を詳細に記録し、帰りの際に親に報告）など、預ける側の親に安心感を与えるというものである。加えて、親・子・保育士三者がともに成長を目指すものとのことであった。

当大学は、保育専攻課程を持つ短期大学であり検証事業受託者としては条件が恵まれていたと思料するが、今回、大学が目指した「質の高い保育」が全国のあらゆる保育環境整備のモデルとして普及することを期待したい。

